

食事をしっかりとるこの大切さを語る上村さん(左)。



2月20日、元女子モーグル日本代表で「2020 F I S フリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会」の大会アンバサダーを務めた上村愛子さんの講演会が神代小学校で行われ、同校の4年生から6年生のほか、西明寺小学校と松木内小学校の5・6年生の児童が

上村愛子さんが児童たちに講演

食事は大切！毎日美味しく楽しく食べよう

それぞれ参加しました。講演会では、上村さんがモーグルの魅力を語ったほか、現役時代を振り返り、レベルアップするために食事の改善に取り組んだことなどを話しました。また、現役時代から現在に至るまで上村さんに食事の指導・管理を行っている日清オイリオグループ公認スポーツ

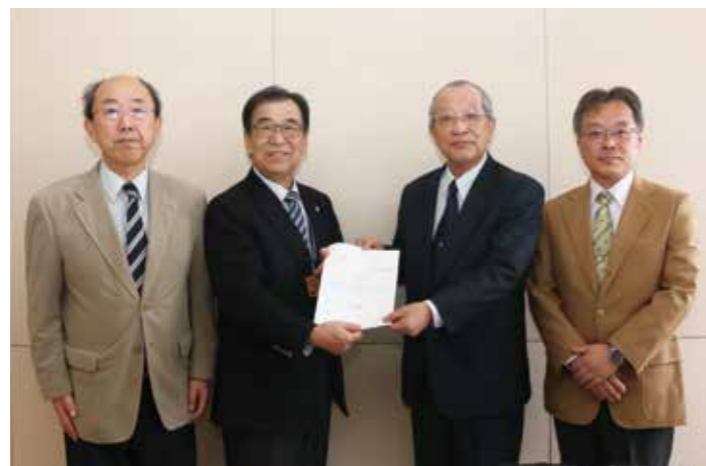
栄養士の清原知子さんがゲームなどを通して食事のとり方や大切さについて伝えました。

上村さんは最後に「食事に興味を持ってもらえたら嬉しい。食事をしっかりとることは勉強やスポーツなど自分のパフォーマンスを上げることにつながる。ご飯を美味しく楽しく食べて欲しい」と、児童たちにメッセージを送りました。



十五日会の平岡三郎会長(左)と秋田銀行田沢湖支店の山下知二支店長(右)。

十五日会
図書カードを
田沢湖図書館へ寄贈
1月30日、十五日会(平岡三郎会長)から田沢湖図書館へ2万円分の図書カードが寄贈されました。この善意は、旧田沢湖町の時代から続けられていて、子どもたちが本に親しめるよう図書館により児童書をそろえて欲しいという十五日会の皆さんの思いが込められています。寄贈された図書カードで、今年も楽しい絵本や読み物を購入しました。ぜひご来館ください。



左から、角館感恩講の河原田次朗事務長、熊谷教育長、加賀谷宏一理事長、放課後等デイサービスすてっぴ田口和典管理者。

角館感恩講が市に寄付金

学生のために役立てて

一般財団法人角館感恩講(加賀谷宏一理事長)より、市教育委員会の育英奨学資金へ活用して欲しいと寄付金15万円が贈られました。角館感恩講では昭和56年から青少年の健全な育成を目的に奨学金寄付事業が続けられています。

2月18日、角館感恩講の事務所で行われた贈呈式で加賀谷理事長から熊谷教育長へ目録が手渡されました。加賀谷理事長は「勉学に励む学生に役立ててもらえればありがたい」と話しました。

2020 第2弾

仙北市の冬まつり

田沢湖高原雪まつり

松葉・相内の裸参り



ダンスやマジックショーなど、ステージショーは盛り上がりを見せました。

2月15日、16日の2日間、たざわ湖スキー場特設会場で「第49回田沢湖高原雪まつり」が開催されました。快晴となった15日は、様々なステージショーで盛り上がったほか、夕方からは雪像がライトアップされ、あたりは幻想的な光景に包まれました。また、紙風船上げや火振りかまくら、スキーヤーによるたいまつ滑走が行われ、光に彩られた光景に来場者か



夜になると様々な光が会場を演出し、幻想的な光景が広がりました。

16日は、強風により午後の日程が中止となりましたが、朝から会場内の屋台を目当てにたくさんの方が訪れ、温かい食べ物を食べながら楽しむ姿が見られました。両日行われた人気の一杯を決める「汁・椀グランプリ」は好評で、来場者は自分のお気に入りの一杯に投票していました。



らは歓声が上がりました。最後は花火が打ち上げられ1日目を締めくくりました。



金比羅宮へ颯爽と駆け上がります。

2月16日、松木内松葉地区で松葉・相内の裸参りが行われました。参加したのは地元若者や消防署の職員、市外から7人。この日は小雨が降り、水温は3度ほど。参加者は松木内川で身を清めた後、腰にわらで編んだ「けんだい」と白足袋にわらじを身につけます。かけ声とともに集落を通り、旭山をかけ上り、金比羅宮へ無火災を祈願しました。



松木内川の冷水で身を清める参加者。



地域講習会で熱心に講習を受ける参加者。

シルバーリーダーが参加

高齢者安全運転推進協力者養成講習会を受講

今年度、秋田県と内閣府の共催により、交通安全運動に取り組んでいる高齢者交通安全指導員（シルバーリーダー）や地域で独自に交通安全活動に取り組む高齢者などを対象に、地域での参加・体験・実践型の高齢者安全運転教育の継続的な推進協力者を養成する講習会を開催しました。仙北市からは、交通指導員の渡辺友康さん、市役所総合防災課の職員の内閣府から修了証が授与されました。

2月8日には、角館の南部地区会館で岩瀬・西下野・下田野地区の高齢運転者を対象に、シルバーリーダーが主催となった地域講習会を開催しました。当日は約20人ほどが参加し、参加者はシルバーリーダーや仙北警察署員の話に熱心に耳を傾けていました。

シルバーリーダーには、これから地域における高齢者安全運転講習会に継続的な推進役として活躍いただくことになりま。地元との会合などの際は、シルバーリーダーをお招きして、安全運転講習会を開催してみたいかがでしょうか。シルバーリーダーは、皆さまからのご依頼をお待ちしています。

市立角館総合病院と大曲厚生医療センター

医療機能連携協定を締結



協定を結んだ市立角館総合病院の伊藤院長（右）と大曲厚生医療センターの三浦院長（左）。

2月27日、市立角館総合病院 伊藤院長と大曲厚生医療センター（三浦雅人院長）が医療機能に関する連携協定を結ぶ調印式が同センター（大仙市）で行われました。

同総合病院では、4月から脳神経外科や小児科常勤医が不在となりますが、この協定により、相互に有する医療機能をより発揮し、質の高い医療や適切な医療の提供、医療機器の共同利用や医師派遣をしていただくことが可能になります。

同総合病院では、可能性に満ちたこの連携協定により、今後、地域の医療を踏まえつつ、市民はもちろんのこと両病院にとっても、さらに質の高い医療提供体制を構築していく予定です。

同総合病院では、可能性に満ちたこの連携協定により、今後、地域の医療を踏まえつつ、市民はもちろんのこと両病院にとっても、さらに質の高い医療提供体制を構築していく予定です。

今後は、同センターに通院する仙北市の患者さんのうち、CT画像撮影検査が必要な場合は同総合病院で行い、定期受診のみ同センターで行います。また、同総合病院の脳神経外科や小児科外来へ医師を派遣していただき、少しでも現状をカバーできるような体制を目指します。

さらに、連携強化による紹介で同センターへ急性期で入院した患者さんの希望に応じて、回復期病棟など同総合病院へ転院、医療機能に則した形でのケアが可能になります。また、希望する方は大曲へ通院しなくても医師を派遣してもらうことで同総合病院での外来診察も可能となることも視野に入れています。



寄合いカフェで楽しい時間を！

折笠靖子



テーブルを囲んで座る「寄合いカフェ」。

皆さん、こんにちは。私にとって仙北市での3度目の冬ですが、今年は特に雪が少ないですね。

2月10日の「上松木内の紙風船上げ」に合わせて内陸線の利用が増える角館駅前で、今年で2回目となる「ミニかまくら作るう会」を開催しました。雪不足が心配されましたが田沢湖・角館観光協会、JR角館駅、秋田内陸縦貫鉄道、角館駅前交番の皆さんや、観光客の方と一緒に楽しみながら作ることができました。ありがとうございました。

さて、前回の協力隊コラムで播磨靖之さんが「ドローンカフェ」について書いてくれました。今回



「ミニかまくら作るう会」の後にみんなで記念撮影。

も松木内の「寄合いカフェ」をご紹介させていただきます。いままでは火曜、水曜、土曜に松木内コミュニティカフェをオープンしています。松木内のNPO法人かじか瀬の理事長である松館文字さんと「秋田内陸線と沿線地域の活性化」の担当である私が意気投合し「地域の皆さんが気兼ねなく集まれる場所」として、このかじか瀬スペースを「寄合いカフェ」として使っています。カフェといっても大きなテーブルを囲んで座る、まさに「寄合い」風です。飲み物だけでなく、地域の料理自慢のおかあさんによる地産地消のランチ品も展示・販売しています。か

ゴバッグやつまみ細工のヘアアクセサリーなど、様々な品物があります。

少しずつですがいるんな方が来てくれるようになり、お茶やコーヒーなどを飲みながら話をする、とても楽しい空間です。どなたでもお気軽にご利用していただければと思います。営業時間は11時から17時です。Cafeというよりコミュニティカフェです。ちなみに木曜日午後と日曜日は「かご編み教室」が開催されています。月に一度ドローンカフェやヨガ教室も開催します。自分も楽しめる、みんなが楽しい場所でありたいと思っています。ぜひ、どんなところかなあと見に来てください。お待ちしております！

栄光 ～輝くとき

地産地消を進める かくのだて「根っこ」の会」が受賞

仙北地域振興局「元気なふるさと秋田づくり」顕彰事業

2月19日、仙北地域振興局で令和元年度仙北地域振興局「元気なふるさと秋田づくり」顕彰事業表彰式が開催され、地産地消を進めるかくのだて「根っこ」の会」がこれまでの活動実績が認められ表彰されました。

「根っこ」の会」は、会員の相互協力により安全安心な地元農産物の効率的な生産・加工・販売などを行っています。生産者と消費者が直接ふれあう機会を創出して安全な農産物の供給と生産者の経営向上を図りながら、花の植栽や住民との交流活動を行い街の活性化に繋げることを目的に平成15年に組織され、現在の会員数は32人です。これまで立町ポケットパークでの地元の農産物の販売や花の植栽などの環境美化活動のほか、大曲支援学校せんぼく校との農産物の収穫・加工作業、冬まつりの開催などの交流や、子育てサポート「はっぴい・ママ」とのひなもちづくりなどの交流を続けながら生産者の意欲向上を図り、より発展的な取組を推進して街の活性化に繋がる活動を行ってきました。



市役所田沢湖庁舎に受賞報告に訪れた小野会長（左）と佐藤恵美子さん（右）。

「今回の受賞は今後の「根っこ」の会の活動に大きな力をいただいた。地産地消市や朝市の会場となっている立町ポケットパークの周辺では地元農産物を購入できる店舗がなく、私たちの販売を楽しみにしてくれている方たちが増えている感じがする。角館を訪れる観光客も商品の購入はもちろん、生産者と直接ふれあえることを楽しみに訪れてくれる。これからも会の活動を通して様々な方たちと交流できることを励みに楽しみながら続けていきたい」と話しました。